

取り組み事例紹介

令和2年度取引力強化推進事業実施組合より

『集客増加を図る「香肌横丁」をPRした組合パンフレット作成事業』



実施組合 いいたか山里協同組合

事業概要 来店客が持ち運びしやすいように、210×364mmサイズの折り畳みパンフレットを作成しました。

片面は各4店舗の販売する目玉商品の写真等で構成し、個店のPRを行い、もう片面には共同店舗の愛称「香肌横丁(かはだよこちょう)」のネーミングを全面に押し出したデザインを掲載し、同時に当組合が立地する県立公園香肌峡の周辺地図を記載したものを掲載することで「香肌横丁」としての販売促進並びに当該地域への誘客促進につなげるパンフレットを作成しました。

そして、近隣市町の観光案内所や道の駅等の施設等に設置させてもらうことにより、広く「香肌横丁」を周知しました。

成果等 各組合員の個店紹介において、目玉商品をクローズアップして写真掲

載を行った結果、改めて

個店の魅力を掘り起こすことができ、PRを見直すきっかけとなりました。また、これまでは、いいたか山里協同組合としてミニイベントを開催する程度で、組合員全員がまとまったPRがなかなかできませんでしたが、今回の事業により、組合として親しみやすい「香肌横丁」というネーミングで組織的にPRすることができました。



全国の先進組合

協同組合湊日曜朝市会（青森県）

● 新型コロナウイルスに対応した大規模イベント事業運営モデルの確立



(写真1)2018年9月



(写真2)

■背景・目的

日本一とまで言われるほどの集客力を誇り、300以上の店が立ち並び、開催時には2万人を超える来場者を有する当組合が運営する「^{たてはながんべきあさいち}館鼻岸壁朝市」(写真1)は、新型コロナウイルス感染症拡大により多大な影響を受け、組合員及び組合の事業継続にとって危機的な状況となっていました。このため、新型コロナウイルスに対応した新しい生活様式を取り入れた「新たな朝市」開催を実現し、組合員及び組合の事業継続を図ることが目的でした。

■取組みの手法と内容

新型コロナウイルスに対応した新しい生活様式を取り入れた「新たな朝市」開催を模索している中で、青森市のITベンチャー企業が開発した体温計やマスク着用の有無を自動検知できるカメラの設置、朝市出入口の制限に加

え、コロナ対策看板(写真2)の設置をはじめとした各種新しい生活様式への対応を行うことで、来場者が安心して朝市を散策・購買できる環境の整備を実施しました。

具体的には、身体的距離の確保として各店舗の配置間隔を通常の1.5倍ほど広げ、清掃・消毒:消毒液を入口に設置しました。接触感染・飛沫感染の防止として、出店者は必ずフェイスシールドを着用し、混雑の緩和として、

会場内が混雑した場合にアナウンスによるキャパシティの制限を行い、入店時の対応として会場入口内に自動検温システムを3台設置し、顧客への周知徹底や三密を避けることなどの案内をチラシにして配布、看板の設置などの新しい生活様式への対応を着実に実施しました。

■成果とその要因

理事長のリーダーシップによる迅速かつ的確な対応、組合員の繁栄を第一に考えた事業活動、お客様の視点に加えて地域への貢献を意識した事業活動を重視したことで、来場者における安心感を醸成し、安定的に朝市を開催することができました。来場者数や出店者の回復につながったことにより、組合員及び組合の事業継続を図ることが可能となりました。